

平成29年度 第2回東海村高齢者福祉計画推進委員会議事録

日 時：平成29年7月31日（月）18：00～19：30

場 所：議会棟201・202委員会室

出席者：（委員）薄井委員長，藤澤副委員，土屋委員，小野寺委員，上条委員，吉成委員，
宮部委員，小野瀬委員，関口委員，根本委員，阿部委員

（事務局）介護福祉課 丸山課長

（介護保険室）：高橋補佐，鈴木係長

（高齢支援）：三浦補佐，坂本主任看護師，大杉

（地域包当）：藤田補佐，石橋係長，三瓶係長

福祉保険課：古川補佐

健康増進課：古川保健師

（委託業者）（株）ワイズマンコンサルティング 西館氏

欠席者：（委員） 櫻井委員，関田委員

配布資料：（事前配布）

- ・資料1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果（リスク分析）補足資料
- ・資料2 第7期計画の具体的な進め方
- ・資料3 東海村の現状
- ・資料4 第6期計画における未実施事業のその後の取り組み（施策目標1関係）
- ・資料5 第6期計画の振り返りと第7期計画策定に向けた課題について（施策目標1関係）
- ・参考資料 第6期計画 事業進捗状況（施策目標1関係）

1 開会 事務局：三浦

2 介護福祉課長挨拶 丸山課長

本日はお暑い中，またお忙しい中，ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

今回はニーズ調査等の結果に関し，ご協議いただきまして，誠にありがとうございました。本日は，まず，前回の宿題についてご回答させていただきます。続いて見える化システムを用いた東海村の現状をお伝えし，そして，第6期計画の振り返りながら，施策目標1について第7期計画策定に向けた課題について御説明さしあげたいと考えております。課題につきましては委員の皆様から御意見を頂戴したいと考えておりますので，どうぞよろしく願いいたします。

3 委員長挨拶 薄井委員長

こんばんは。毎日暑く，熱中症が流行っております。お疲れのところお集まりいただきまして，ありがとうございます。本日も円滑な進行にご協力よろしく願いいたします。

4 出席者紹介及び委員名簿の修正について（委員名簿参照） 事務局：三浦

＜事務局出席者の紹介＞※初回配布した事務局名簿以外の出席者

- ・古川 政史（福祉保険課課長補佐）※福祉保険課 金田主任の代理として出席
- ・石橋 昌子，三瓶裕美（介護福祉課地域包括担当係長）

＜委員名簿の修正＞

- ・小野寺委員の所属を，東海村ボランティア連絡協議会代表から東海村ボランティア連絡協議会顧問に変更
- ・土屋委員の所属を，茨城大学人文学部講師から人文社会科学部講師に変更

5 議題 議事進行：薄井委員長

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果（リスク分析）の補足資料について 事務局：大杉委員長）議題（1）について，事務局から説明をお願いしたい。

〔説明概要〕※資料1を使用

- ・資料1の各リスク項目の①は，アンケート調査結果のP61のリスク分析について，率ではなく実数でどの位いるかを記載したもので，またそれを実際のアンケート結果に重ねて表示したのが資料の最後のページである。
- ・資料1の各リスク項目の③は，村の実際の人口ベースではどうなのかを示したもので，住基人口から要介護者を引いて対象者をだし，それにそれぞれの項目の率をかけて推計該当者数を出した。

＜質疑応答・意見＞

委員長） ご質問，ご意見等はいかがでしょうか。

委員） 性別，年齢内数の合計が，全体の数値と合わない。これらの数値はどこからきているのか説明願いたい。

事務局） 全体の数値は内数の合計ではないということです。性別，年齢の無回答者がいるため，内訳の数値の合計は全体の数値と一致しないことになります。

委員） リスクを計算するベースが異なってしまうのではないですか。性別や年齢がきちんと分かる数値を積み上げて計算しないと，最後の数値が変わってくると思います。大きな傾向にならないと思いますが，気になります。

事務局） 厳密にはズレが出てくると思いますが，全体の数値を算出する上で，より多くのサンプルを用いたということでご理解いただきたいです。

委員長） 色々な解析の仕方があると思いますが，ご指摘はご指摘として受け止めたいと思います。事務局も今一度参考にしてください。そのほか，ご意見，ご質問等はいかがでしょう。

全員） なし。

委員長） それでは，次の議題（2）に移ります。事務局から説明をお願いします。

(2) 第7期計画策定の具体的な進め方について

〔説明概要〕※資料2を使用

- ・事務局としては第7期の将来像は，第6期計画から引き継ぐことを考えている。また，今後のスケジュールの具体的な内容について説明。

委員長） この部分については，(4)②に関連するので，そこで一括してご質問等を受けたいと思います。それでは，次の議題（3）に移ります。事務局から説明をお願いします。

(3) 東海村の現状について

〔説明概要〕 ※資料3を使用

- ・国が示した見える化システムを使用して地域分析を行ったものが資料3である。今後全国の市町村でこのシステムを活用することで他市町村の状況を把握し、地域間の比較をすることが可能となる。

〈質疑応答・意見〉

委員長) ご意見、ご質問等はいかがでしょうか。

委員長) 人口推移の折れ線グラフの凡例については、「■」が生産年齢人口割合、「●」が高齢化率という理解でよいですか。

事務局) ご指摘のとおりです。

委員長) そのほか、ご意見、ご質問等はいかがですか。

全員) なし。

委員長) それでは、次の議題(4)に移ります。①について、事務局から説明をお願いします。

(4) 第6期計画の振り返りと第7期計画策定に向けた課題について(施策目標1 関係)

①未実施事業のその後の取り組みについて

〔説明概要〕 ※資料4を使用

- ・平成28年度の第2回委員会で報告した以降の現在までの進捗状況について報告する。「健康な食生活推進事業」以外については、各事業単発で実施ではなく、複合的に実施する方向で検討しており、早い段階で企画できるよう調整していく。「健康な食生活推進事業」については、毎日型配食サービス事業は他事業との公平性の観点等から現在は終了しており、利用希望者に対しては、配食事業所の一覧表やパソレットの紹介を行う形で実施している。

委員長) ご意見、ご質問等はいかがでしょうか。

全員) なし。

委員長) 未実施事業は、いつ頃実施可能ですか、具体的な内容についてはどう考えていますか。

事務局) 担当者レベルで素案は持っているものの、まだ詰めきれていません。例えば、警察署の協力による講話、スマートフォンの使い方講座などを考えても、1つの事業にまとめるには調整すべきことが多いです。方向性が出た段階で、委員にはお示しさせていただきたいと思います。

委員長) そのほか、ご意見、ご質問等はいかがでしょうか。

全員) なし。

委員長) それでは、②について、事務局から説明をお願いします。

②第6期計画の振り返りと第7期計画策定に向けた課題について

〔説明概要〕 ※資料5と参考資料を使用

- ・参考資料は各事業レベルで進捗状況や課題等を書き出したもの。今回の議題にH28年度の実績報告が含まれているが、そちらについては改めて説明せず、この資料を元にご確認いただくこととしたい。
- ・次に6期計画の振り返りだが、これは単位施策レベルで行い、課題を確認していきたい。今日は基本施策1-1について、施策ごとに、事業の進捗状況、主な事業の詳細、アンケート等から見える現状、第7期計画に向けての課題について説明する。

委員長) ご意見、ご質問等はいかがでしょうか。

委員) p4について、高齢者クラブの自主運営体制が整っていないとありますが、事務局としてはどういう認識でこのような記載に至ったのでしょうか。また、P5でグループ活動・サ

ークル活動のどれにも参加していない方が323人となっていますが、参加していない理由について、アンケートでは聞いていますか。

事務局) 担当としても高齢者クラブの現況を把握しており、自主運営体制が整っていないという表現は誤りであり、大変申し訳なく、お詫び申し上げます。現状できちんとした体制づくりができていますので、さらなる支援を目指していきたいと考えます。2番目のご質問については、アンケートにおいては、参加していない理由を尋ねる設問は設定してなかったところです。

委員) 高齢者を一括りに考えていいのでしょうか。高齢者クラブにどんどん入ってくれというだけでなく、入っていない7割は入らなくても大丈夫だということも言えると思います。経済的に余裕があり、安定している人など、入らなくてもいい人はそれでよく、むしろ、入りたくても入れない人をどう把握するかが問題だと思います。

事務局) 貴重なご意見をいただき、感謝します。

委員) 進捗状況の評価について、A、B、Cの3段階評価はおおまかな感じがします。同じA評価でも進捗のパーセンテージはバラバラです。

事務局) パーセンテージの表記については、評価別の事業数の構成比となっています。

委員) 参考資料において、A評価事業についてはすべて進捗率100%という理解でよいですか。

事務局) A評価事業がすべて進捗率100%かといえば、そうとも言い切れません。

委員長) 私も評価は甘めかなという気がしています。さきほどの高齢者クラブの評価には手違いがあったかもしれませんが、逆に自主運営体制ができていないと総括したのであれば、少なくともA評価ではなかったはずで、課題として見直すところがあればA評価ではなく、B評価なのだと思います。基準が少しゆるいのではないかという気がします。

委員) p3の孤立予防の推進に関して、居場所の確保、自治会レベルの交流などの重要なキーワードがアンケート結果から示されています。居場所の確保や住民に最も身近な自治会レベルでの交流の場が求められていると感じるので、ぜひとも7期計画に反映してもらいたいと思います。地域に居場所がほしいという住民の意見は非常に多く、現在、村内には「ふれあいいきいきサロン」が約30か所できており、地区社協でも居場所づくりとして集会所の開放など行っています。しかし、サロンや集会所開放などは毎日ではなく月1~2回なので、地域においては身近な場所に常設型の施設がほしいという希望もあり、コミュニティセンターの一部を開放してほしいという話も耳にしています。今後は居場所づくりがキーワードとなってくると思っています。

7期の課題として、孤立の予防、福祉ニーズの把握のためにもネットワーク構築が必要になると思いますが、その意味では南台などで月2回やっているような専門職も交えた介護相談の事例や小地域での居場所づくりなどの事例はとても重要です。

また、p7の雇用・就労において、有償ボランティアの拡充とありますが、誤解を生じる懸念があります。有償ボランティア活動としては家事援助や子育て支援などだと思いますが、それらはあくまで住民同士の助け合い活動の中でのお金の発生であり、就労ではありません。ボランティアは無償性が原則なので、就労として括ってしまうと本来の意味とはズレてしまうのかと思います。本来は有償ボランティアではなく有償サービスというべきです。ここの記述についてはご検討いただければと思います。

事務局) 確かに村政懇談会の中でコミュニティセンターの中に居場所を作ってほしいという話がでました。現状としては難しいという回答をさせていただいておりますが、コミュニティセンターは広域的な地区の拠点になっているので、高齢者が歩いてでも来られるような集会所等で様々な活動ができる場を作っていきたいと思います。こちらは行政だけでできることではございませんので、社協や住民の方の協力を得ながら住みやすい地

域の拠点を身近な場所に作っていきたいと考えますので、今後も御意見いただければと思います。

委員) シルバー人材センターとして努力はしているものの、企業は65歳までの雇用になっており、なかなか会員が増えません。仕事を確保しても会員が減れば、受ける仕事を減らすことになり、さらに会員が減るという悪循環。いかにしてこの負のスパイラルを断ち切るかが課題です。このような状況を認識した上で、「就労機会の確保に十分な役割を果たすように働きかけが必要」という表現は変えた方がよいと思います。

事務局) 防災無線で月2回呼び掛けているが、会員は増えない状況です。今後も、シルバー人材センターと連携・調整していきたいと考えています。

委員) この部分には、高齢者の経済上の支援のほか、生きがい、余暇などの内容も含めて記載したほうがよいと思います。

委員長) 高齢者クラブの補助金は増やしているのですか。

事務局) ほぼ一律で、横ばいの状況です。

委員) p4の協議体。第1層協議体は地域支え合い体制整備事業であり、第2層協議体は平成30年度までに立ち上げることが決められていると思います。第1層協議体の会議について6回開催されA評価となっておりますが、具体的にどのような議論がなされているか、内容をお聞かせいただきたい。

事務局) 平成28年度は、住民を交えての会議というのは2回ほどで、それまでは、行政や社会福祉協議会の関係者での会議でした。住民を含めた協議体ができたのは年度末になってからでありますので、それを100%進捗しているというのは違うかもしれません。

今現在につきましては住民、ケアマネジャーなど、多職種の方々がメンバー固定せず無く登録制で第1層協議体に参加していただいております。会議では具体的な事例を挙げ、その課題についてどのように取り組むか、どういった形で支援できるかをグループワークをしながら情報共有・検討にあたっています。その成果を地域に落とし込んでいかなくてはなりませんので、その形態が第2層協議体に移行できるように社会福祉協議体と協力して進めております。

委員) 早期にということなので、第2層の立ち上げは平成29年度中にあり得そうですか。

事務局) 本年度としては、1～2地区をモデルとして、立ち上げていきたいと考えております。社会福祉協議会に、生活支援コーディネーターがおりますので、調整して進めております。

委員) 具体的に第2層協議体が立ち上がれば、もっと地域の住民の意見であったり、ボランティアによるサービスの提供であったり、裾野が広がっていくことと期待します。

委員) 本日は第6期の振り返りを聞いて良かったと思っています。参考資料についてですが、振り返りということで個々の中身については他の委員の皆様の方が的確なご意見があると思いますので、私は計画の作り方という観点からの振り返りということで意見を述べさせていただきます。

まず、基本施策1-1に出てくる「社会活動」という言葉が何なのか疑問に感じました。次に単位施策ですが、東海村ではいろいろな活動が活発に行われているので、それらを的確に計画に落とし込んでいくのは難しいとは思いますが、単位施策をみると、1-1-4「趣味・生きがいづくり支援」は行政が村民個人に対して行う支援。それが1-1-3「地域活動への参加支援」になってくると一人ひとりへの支援ではなく、人とのつながり・交流という平面的なものに広げた支援。そして1-1-2「地域団体の活動支援」は単なる交流とかではなく、支え合いや助け合いということで、個々人が責任あるような活動を期待するようなものになってくるのかなと。この段階で、行政は誰に対してどこ

まで期待してこの計画を作ったのかな、ということを感じました。

また、1-1-2の「高齢者クラブ補助事業」について「地域の介護予防活動に積極的に取り組んでもらえるよう」という記載があるのは総合事業の介護予防活動を念頭において書かれたのかなと感じたのですが。違うでしょうか。また1-1-5（P7）において、「有償ボランティア活動の拡充」という記載がありますが、やはりこれも総合事業の担い手となることを期待しているような表現なのかと思いました。実際総合事業の担い手としてはシルバー人材センターが計画の中に入ってきていますので。その期待値として第7期に向けた課題としてこの一文が入っていると感じました。

そうなってくると7期に向けての課題の部分の記載ですが、行政側の期待としてここまでやってほしいというのが一つあって、一方で各団体が取り組まれた実績への評価があって、本来それは別なのですが、一緒になってしまっていると思います。とにかく今は6期の振り返りは振り返りとして各種団体の取組実績の評価はして、今後の行政側からの地域団体や地域活動に対する期待や願いについてはまた別として整理した方が良いと感じました。

また、2点目として、孤立予防の推進についてですが、どのように位置づけるのかなと感じました。アンケートの結果をみると、孤立予防というよりは、自治会や地域活動が重要という意見が寄せられている。既に孤立した人にどうするかではなく、その前段階で趣味や生きがいづくりを支援して、家以外のところに活動を求めるとか地域活動への参加支援というように出てくるので、こういった意見を孤立予防だけでなく、地域活動への参加支援や趣味・いきがいづくりなどの項目にも反映させたほうが良いと思います。

第7期計画は、第6期を踏襲する考えのようですが、基本施策や単位施策については整理したほうがよいと思います。第7期の単位施策はもっとシンプルにした方が良いのではないかと感じました。

事務局) 施策体系ですが、将来像については変わらずに継承していくという方向ですが、単位施策、基本施策については、事務局としても第7期において変更していこうと考えております。

委員) 社会活動としては、これまでは趣味や生きがいづくりがメインだったと思いますが、今後は生活支援活動などの総合事業も関係してきます。行政側として担い手がほしいということであれば、別途、明確に掲載したほうがよいと思います。

事務局) 住民に担っていただけるよう、課題として反映したいと思います。

委員長) 次の基本施策1-2の説明をお願いします。

事務局) 時間の関係もあり、委員各位は資料を事前にお目通しいただいていると思うので、説明は割愛させていただきたいのですが、いかがでしょうか。

委員長) 質疑に入るといことでよろしいですか。

全員) 了解。

委員長) ご意見、ご質問等はいかがでしょう。

全員) なし。

委員長) 時間の問題がありますが、やはり事務局の説明があったほうが良いように思います。審議は次回の委員会にまわすことにして、今日は説明をお願いします。

・基本施策1-2について、事務局より説明。

委員長) 時間の関係がございますので、本日はここまでとして、次回の委員会でも再び簡単に説明していただいた上で、審議したいと思います。

(5) その他

委員長) その他として何かありますか。

全員) なし。

委員長) 本日の議事は以上としたい。

(3) その他

6 閉会 事務局：三浦

事務局) 今回事務局の不手際でスムーズな回答もできず申し訳ありませんでした。次回は今日残った部分と施策目標2ということで進めて参ります。事務局において再度資料も見直し、円滑な運営に取り組んでまいりたいと思いますので、委員の皆様ご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。